

大田市志学地区「小さな拠点づくり」の取り組み

住民の力を合わせ住みよいまちに！～計画づくりと実践活動～



■ 志学地区の概要



- ・大田市は旧公民館を「まちづくりセンター」として改組。27のまちづくりセンターを配置
- ・まちづくりセンターのエリアを単位としたまちづくりを推進している。

■ 志学地区の概要

志学地区は大田市の南東部、三瓶山の南山麓に広がる台地に位置している。

6 自治会 人口は526人

世帯数は246世帯 高齢化率は51.9%

(令和2年3月1日現在)

基幹産業は農業と観光である。

また畜産も盛んであり、大規模な酪農が営まれている。

観光は四季を通じて三瓶山や温泉に観光客が訪れている。

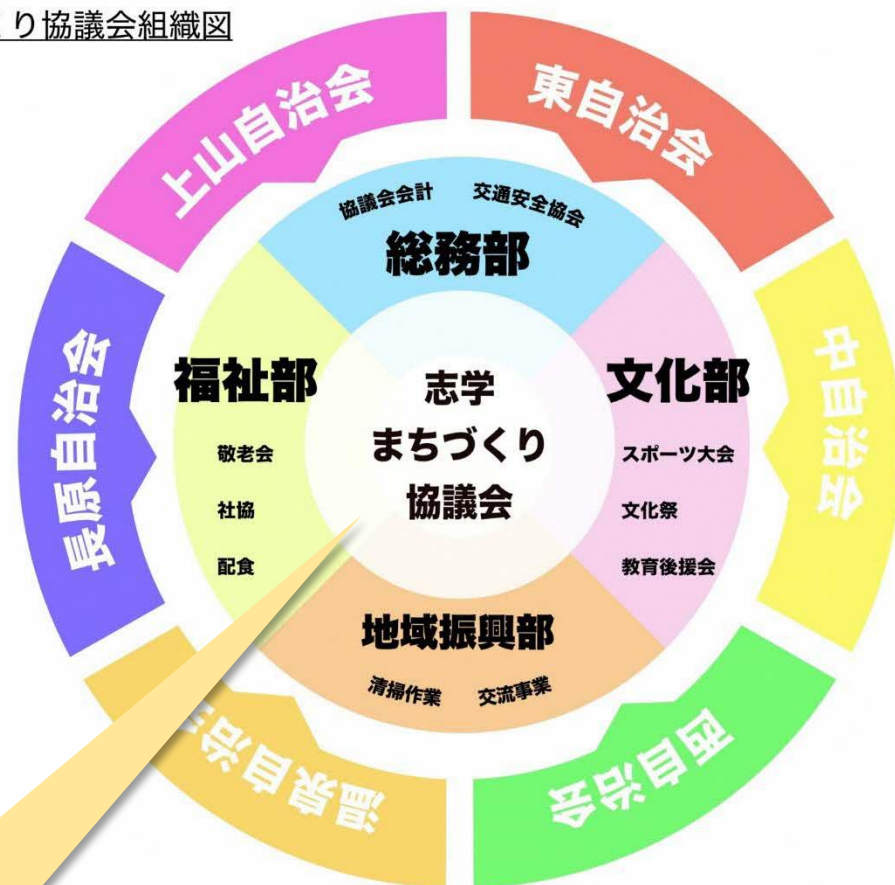


■ 主要推進組織

『志学まちづくり協議会』

志学まちづくり協議会組織図

相互に協力し合い、住みよい町を創出し、地域の核として自治の確立を目指すことを目的として、平成21年4月に設立。志学地区に居住する全住民が会員。地区内の全自治会、地区社会福祉協議会、消防団、小中学校、商工会、老人会等の各団体も参画し、各組織の効率化（役員、日程、同事業、事務等）を図っている。



『志学自主防災会』

平成24年、大田市内で初めて住民主体の大規模防災訓練を実施
平成30年4月の震災時にも、速やかな対応を行うことができた。

■ 現場支援地区選定の経緯

(地区の状況)

- ① まちづくり協議会組織及び自主防災組織の立ち上げ。
- ② 交流人口の拡大を目指し、住民主体での各種イベントを開催。

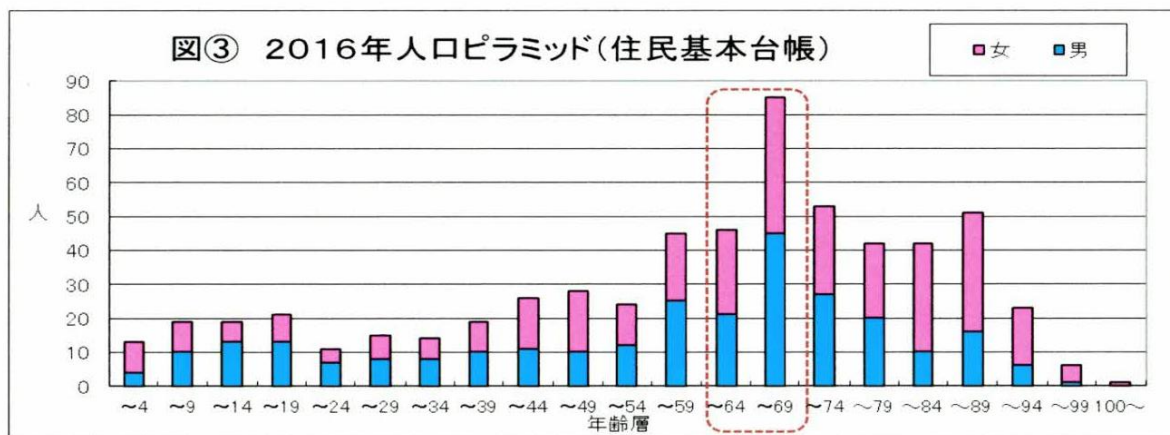
地域の魅力発信にも力を入れて来た。

しかしながら人口減少や少子高齢化等厳しい状況が続いており、このままで志学地域に暮らし続けて行くことに不安を感じる状況に。

→平成28年8月、

「現場支援地区」に選定されるよう県への推薦を大田市に依頼。

■ 現在の年齢構成(2016年住民基本台帳)



- ✓ 60代が多く主力世代
- ✓ 60代が元気なこの10年が勝負と考える

現場支援地区期間中の取り組み

①未来会議の開催



②計画策定WGの結成



⑤志学地区 まちづくり 計画の策定



⑥実践活動

三瓶・志学全住民アンケート結果（概要）

□配布日：7月26日～8月6日

（5年生以上の小・中学生7月14日～19日）

□回収日：8月7日～8月20日

□集計日：8月21日～9月5日

□回収率：86.65%（配布数502名、回収数435名）

志学事業リスト

	具体策（案）	対象	担い手	定住	空家	自然温泉	巻込	計画
	通いの場ができる 通いの場の設置を確保する	高齢者	協議会	👍	○	也		1
	・定住住宅の新築 ・中古住宅の整備 ・お試し住宅の整備 ・先達地割（三次市 吉河など） ・法人設立	移住希望者	建設関係 （法人設立）	👍👍👍	○	也		2
若者の居場所	若者の居場所となる拠点を作る カフェ、食堂の運営 （子供の放課後の居場所）	若者の居場所をつくる	地域の若者	👍👍👍	○	?		1,2
教育魅力化	志学の教育の特色を生かし、PRする。 移住者や帰還希望者を	保小中一貫教育をPR 放課後児童クラブ	移住者	👍👍👍	?	?		1,2
特産品づくり								
農業の振興								

③全住民アンケート

④優先順位・実行体制の決定

■ 現場支援地区期間中の取り組み

① 未来会議の開催（地域を知る勉強会・ワークショップ）

- ・ 志学の良いところ（強み）
- ・ 生活で困っているところ、不安なところ（弱み）
- ・ 志学であんなことができたらいいい（強み×弱み） など

ねらい

- ✓ 機運を盛り上げる
- ✓ 参加の輪を広げる
- ✓ 人材の発掘・育成



協議会の役を担っていなかった女性、
小・中・高校生や保護者世代へも積極的
に呼びかけ



■ 現場支援地区期間中の取り組み

②まちづくり計画策定ワーキンググループの結成・活動

③全住民アンケートの実施

未来会議などから拾い上げた住民意見を、計画にまとめていく活動を、未来会議参加者の中から**ワーキングチーム**を結成し、実施

✓ まちづくり協議会役員でなく、
小中学生や女性も多く参加したチームにより、活動



併せて、会議の場では拾えない地区住民の意見を聞くため、全世帯へアンケートを実施 → できたら良いこと/不安なこと/10年後の目標・・・

地区住民からの意見（第4回計画策定ワーキング資料）

志学まちづくり計画

■目的

志学で今後も住み続けるために
住民の力で住みよいまちにする

■方針

一人ひとりが多様性を認め合うまちにする
一人ひとりが協力し助け合うまちにする
一人ひとりが夢を持ち暮らせるまちにする

【10年先の目標】人口550人
(小学生23人、中学生11人)

【20年先の目標】人口530人
(小学生30人、中学生15人)

【30年先の目標】人口500人
(小学生40人、中学生20人)

【キャッチフレーズ】
自然もいい 湯もいい 人もいい
ほっと (HOT) 志学

【長期目標】
人口が減らない
増えて安定する

価値観の違い
を認め合う

住める家
をふやす

1ターンが増える

志学リピーターが
増える

イベント企画

シニア層の
1ターンが増える

体験ツアーの実施
(自然、農業、畑つき住宅等)

子供が増える

助け合う
(例プールの見張り)

子育て世代の
移住希望者が増える

保育園の特色を出す

保小中一環の特色出す

空き家を
整備する
(市の補助)

定住住宅
をつくる

地元で仕事
ができる

観光客が増える

パワースポット
化する

三瓶+
ツアーの実施

特産品ができる

発電する

ブランディング
(例 志学のお肉、お米)

レジャー施設
ができる

ワイナリーができる

入浴以外で
温泉を活用する

お年寄りが
生活しやすくなる

居場所をつくる

家から公共交通機関で
高校に通える

交通の便が
よくなる

人口がへらない

学校が存続する

学校が
存続する

放課後の子供の
居場所をつくる

■ 現場支援地区期間中の取り組み

④ 優先順位、実行体制づくり

志学地区13人会

- ・ まちづくり協議会
会長、副会長、各部部長
- ・ 自治会
6自治会長
- ・ まちづくりセンター
センター長、職員

計画策定WGメンバー

- ・ 小・中・高校生
- ・ P T A会長など
保護者世代
- ・ U I ターン者
など計16名

→ 合同での話し合いを重ね、検討・取り組み主体を決定

現場支援地区期間中の取り組み

まちづくりビジョン

⑤地区まちづくり計画の策定

【理念】

住民が**志**を立て**学**び合うまちにする

【方針】

- 一人ひとりが**多様性**を認め合うまちにする
- 一人ひとりが**協力し助け合う**まちにする
- 一人ひとりが**夢を持ち暮らせる**まちにする

【目的】

志学で今後も住み続けるために
住民の力を合わせ住みよいまちにする

【目標】

人口のキープ！
～**人を増やし安定させる**～

■ 10年先の目標

人口**580**人（小学生**25**人、中学生**10**人）

■ 20年先の目標

人口**590**人（小学生**40**人、中学生**20**人）

■ 30年先の目標

人口**600**人（小学生**45**人、中学生**25**人）

【キャッチフレーズ】

い～湯 い～人 い～自然
みんなでいこうや ほっと志学

方向性

情報発信

方向性

情報発信

方向性

- 1.つながりと魅力をつくる** (生活機能と生活交通の確保) **2.交流と定住をつくる** (定住・交流の促進) **3.仕事と収入をつくる** (地域産業の振興)

基本課題：1.機運の盛り上げ、 2.参加の輪を広げる、 3.人材の育成・誘致

根本課題：1.保守性の克服、 2.閉鎖性の克服、 3.依存性の克服

現場支援地区期間中の取り組み

⑤地区まちづくり計画の策定

課題項目・事業項目

[高齢者、生活交通、生活支援
住民の巻き込み、女性の活躍]

[定住・交流、子育て]

[起業・仕事]

つながりと魅力をつくる

【事業項目】

- 住民を地域活動に巻き込む
- 女性の活躍の機会・場づくり

1. ★集いの場をつくる
 - ・通いの場づくり
 - ・生活サポートづくり
(買物、通院)

2. ★生活交通を確保する
 - ・自治会輸送などの事例研究
 - ・導入に向けた組織体制づくり

3. ■空き家を活用する
 - ・若者や高齢者のたまり場づくり
 - ・情報基地、カフェ、フコトづくり

4. ○高齢者のサービス・施設づくり

定住と交流をつくる

【事業項目】

- ★UIターン者を確保する
 - ・UIターン者のフォロー
 - ・空き家の調査・活用とバンクへの登録
 - ・移住促進協議会の設立
- 子育て世代の移住を増やす

1. ■放課後の子供の居場所をつくる
 - ・子供と高齢者の居場所づくり
 - ・学童保育の終了時間延長

2. ■住める家を確保する

3. ■保育園、小中学校を存続させる
 - ・学校と地域一体での魅力づくり

4. ○交流から定住につなげる

仕事と収入をつくる

【事業項目】

- ★三瓶山や自然を活用する
- ★ツーリズムを開催する

1. ★温泉を活用する
 - ・共同浴場の存続と充実

2. ★特産品を開発し販売する
 - ・そば、米など
 - ・直販・通販の仕組みづくり
 - ・6次産業化、ブランド化

3. ■農業を振興する
 - ・集落営農組合の立ち上げ

4. ■若者の仕事（場）をつくる

現場支援地区期間中の取り組み

⑤地区まちづくり計画の策定

志学まちづくり 実行計画骨子

✓ おおまかな取り組み
スケジュールを記載

✓ 検討・実行主体に
についても記載

三版・志学まちづくり実行計画骨子（案）

資料 2

[検討・調査]

[実施へ]

1. つながりと魅力をつくる（生活機能と生活交通の確保）

抽象的・具体的事業項目	実行主体 (予定)	取り組み時期				
		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目以降
■住民を地域活動に巻き込む ■女性の活躍の機会・増づくり	抽象的事業項目を踏まえ、具体的事業項目の詳細を考える					
1. ★集いの場をつくる (通いの場づくり)	福祉部	体制づくり・実施準備	実施	(コア)・パートナーが決まれば早く実施		
2. ★生活交通を確保する (自治会輸送等の事例研究)	総務部	検討・調査	実施	(通いの場)の進捗状況を見ながら検討		
3. ■空き家を活用する (若者のたまり場づくり)	WG 一部 たまりば		検討・調査	実施		
4. ○高齢者のサービス・施設づくり (○○○○○○○○○○○○○○)						検討

(◎大田さん、松尾さん、千原さん、堀田さん、尾崎さん)

2. 定住と交流をつくる（定住・交流の促進）

事業項目	実行主体 (予定)	取り組み時期				
		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目以降
★U1 ターン番を確保する ■子育て世代の移住を増やす	抽象的事業項目を踏まえ、具体的事業項目の詳細を考える					
1. ■放課後の子供の居場所をつくる (子供と高齢者の居場所づくり)	文化部 PTA 老人会	体制づくり・アンケート	実施			
2. ★住める家を確保する (空き家の再調査と事例調査)	総務部 自治会	空き家再調査	事例調査	実施		
3. ■保育園、小中学校を存続させる (学校と地域一体での魅力づくり)	保小中学校、PTA、協議会		検討・調査	実施		
4. ○交流から定住につなげる (雪あかり、ふうりんおんせん、さくら祭りなどの取り組み)	実行委員会など 協議会	実行委員会など				

(◎杉本さん、尾崎さん、宮脇さん、石賀さん、岩谷さん)

3. 仕事と収入をつくる（地域産業の振興）

事業項目	実行主体 (予定)	取り組み時期				
		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目以降
★三瓶山や自然を活用する ★ツーリズムを開発する	抽象的事業項目を踏まえ、具体的事業項目の詳細を考える					
1. ★温泉を活用する (共同浴場の存続・充実)	2つの組合、地域振興部 総務部	現状把握・計画づくり	実施	できることから実施		
2. ★特産品等を開発し販売する (さくらの会、岩谷さんらの取り組み)	桜の会、岩谷さんら、地域振興部	検討・調査	さくらの会、岩谷さん以外の団体など実施			
3. ■農業を振興する (五島さんらの取り組み)	五島さんら、協議会	検討・調査	五島さん夫婦以外の団体など実施			
4. ■若者の仕事(場)をつくる (○○○○○○○○○○○○○○)						検討

(◎福原さん、景山さん、和田さん、坂中さん、五島さん、福島さん、三谷さん)

■ 現場支援地区期間中の取り組み

⑥ 実践活動

つながりと魅力をつくる（生活機能と生活交通の確保）

○ 高齢者通いの場の立ち上げ（H31.4～）

- ・ 高齢者の集いの場を、週に1回で開催
- ・ 運営コーディネーターとして、地区内の女性3名が参画、その他の運営ボランティアとともに活動を支えている。



○ 地域内交通の仕組みづくり（R1.7～）

- ・ 地区住民の移動手段の確保に向け、検討を開始
- ・ 全住民アンケート、利用希望者個別ヒアリングを実施
- ・ 令和2年度から、地区内のタクシー会社を活用したタクシーの乗りあわせ利用を試行実施予定

■ 現場支援地区期間中の取り組み

⑥ 実践活動

定住と交流をつくる（定住・交流の促進）

○ 放課後子ども教室の開設（H31.4～）

- ・ 放課後に子どもを預かる仕組みがないため、過去他地区に転出した事例も
- ・ まちづくり協議会役員と保護者世代が一緒になり検討を開始。保護者アンケートや地区内でのボランティア募集・説明会を経て、全児童参加のもとスタート



■ 現場支援地区期間中の取り組み

⑥ 実践活動

仕事と収入をつくる（地域産業の振興）

○ 温泉を活用する

住民全戸や利用者にアンケートで集めた結果をもとに「**共同浴場活用プラン**」を作成

歴史ある共同浴場を存続させる活動に取り組む

- ・ 利用促進として「**お風呂の日**」毎週第4土日（菖蒲湯・ゆず湯・リンゴ湯など）10回開催
- ・ 風鈴棚・**足湯の設置**
- ・ ふうりんおんせんや大掃除など**イベント**を開催
- ・ **のれん**や**看板**・**ロゴ**を作成し利用を促す
- ・ **ホームページ**や**SNS**などを利用し情報発信
<https://sanbe.site/> 三瓶温泉 共同浴場
Facebook 三瓶温泉「志学薬師 鶴の湯・亀の湯」



ふうりんおんせん手持ち花火大会の様子



お風呂の日11月の「リンゴ湯」

■ 現場支援地区期間中の取り組み

地区内への周知

志学 まちづくり センター

志学地区のまちづくり

10年後 どうなる?・どうする?

「未来会議」という取り組み

小さな拠点づくり 現場支援地区の取り組み

29年度
立ち上げ
まちづくり計画

永年協会のメンバー WG 有志のメンバー
住民アンケートの実施
現状の把握・課題の抽出
事業・活動の抽出
目的と目標の方向性

理念 住民が志を立て学び合うまちにする

方針 一人一人が 多様性を認め合う 協力し助け合う まちにする 夢を持ち暮らせる

目標 「人口のキープ」 ~人を増やし(減らさない)安定させる~
行動目標 3つの柱

い〜湯 い〜人 い〜自然

キャッチフレーズ みんなで行こうや ホッと志学

30年度の取り組み

1 つながりと魅力をつくる (生活機能と生活交通の確保)
高齢者の集いの場をつくる
実行 志学まちづくり協議会 福祉部+WG
田市の介護予防、日常生活支援総合事業を利用
コーディネーター・サポーター・ボランティアは決定
12月 運営委員会をスタート準備
4月3日スタートの予定

2 仕事と収入をつくる (地域産業の創出)
温泉を活用する
実行: 志学まちづくり協議会 福祉部
+WG有志+温泉ソムリエ
共同浴場の存続が高齢化と利用者の減少
4月の地震を受け危機感を抱いている。
(温泉から利用する形で存続を図っている)
歴史ある共同浴場の存続を目標に取り組み
広報部 利用促進部 保全部
を設置し取り組みを始める

3 定住と交流をつくる (定住・交流の促進)
放課後の子供の居場所を作る
実行団体 志学まちづくり協議会 文化部
+WG有志
利用対象家庭へのアンケートを実施
どのような実施方法があるか
保護者を含め勉強会をすす

3つの柱

- ✓ 地域内イベントでのPR
- ✓ 毎月全戸に配布している「まちセン便り」での継続した情報発信



■ 現場支援地区期間中の取り組み振り返り

今年度2回目の未来会議を開催



取り組んで良
かったこと
今後やってみ
たいこと

これまでの活
動から見えて
きた課題



住民一人一人が感じた思いを共有し、今後の活動へ

■ 現場支援地区期間中の取り組み振り返り

2月23日 今年度2回目の未来会議を開催

■ 良かった、 今後こうしたい

- ・ 地域について考えることができた
- ・ 多くの人が関わり大人も子供も含めいろんな意見が聞けた
- ・ 志学の現状が分かった
- ・ 地域の課題が共有できた
- ・ たくさんのことが実現できた
- ・ まちづくりの方向が見えた
- ・ まちづくり計画があり進めやすい

■ 難しかった 課題

- ・ 人口の増加につながるのか
- ・ 財政的な不安
- ・ 活動が継続できるのか
- ・ 危機意識が地域にないのが不安
- ・ ボランティアが増え負担感がある
- ・ 同じ人が活動している
- ・ PR不足で活動を知らない人が多い

ありがとうございました

春



三瓶さくら祭り



夏



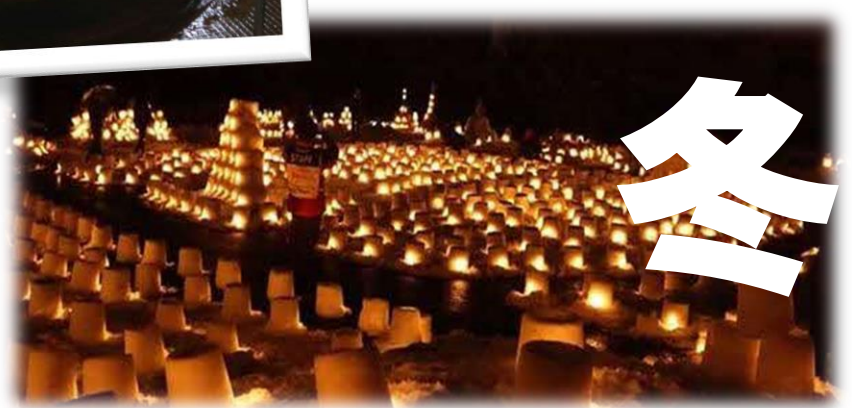
ふうりんおんせん

秋



ぐるっと三瓶くにびきウオーク

冬



さんべ志学の雪あかり